

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

全日本剣道選手権大会

11月3日・日本武道館



優勝＝木和田大起 剣士六段



第60回全日本剣道選手権大会

木和田大起 (大阪) が初優勝

高鍋進の3連覇を阻む



天皇盃を手にする木和田大起錬士六段

全日本剣道連盟設立60周年を記念する第60回全日本剣道選手権大会は、11月3日、日本武道館で開催された。大会には、全国各地区の予選を勝ち抜いた精鋭64名が出場し、トーナメント戦により争われた。

試合は木和田大起錬士六段（大阪・大阪府警）が、決勝で内村良一錬士六段（東京・警視庁）に小手を決めて一本勝ちし、初優勝を遂げた。三位には網代忠勝六段（兵庫・兵庫県警）と高鍋進錬士六段（神奈川・神奈川県警）が入賞。

大会史上初の3連覇を目指す高鍋は、準決勝で木和田に小手を奪われて、惜敗した。



会場の日本武道館には、8831名の観客が集まった



写真上・開場を待つ剣道ファンの長蛇の列
写真下・賑わうプログラム売り場



決勝〔木和田 コー 内村〕
突きに跳ぶ内村に、木和田（右）が小手を決める

準々決勝（網代 コー 野田）
網代（右）の小手が決まる



準々決勝（内村 メー 朝比奈）
内村（右）が面で攻める



大会の出場資格は段位無制限で、満20歳以上。試合は、1回戦から3回戦までは5分間、準々決勝からは10分間の3本勝負。時間内に決しない場合は時間無制限の延長戦によって勝負が争われた。

◆第1・2ブロック（1回戦）準々決勝

第1ブロック、前回準優勝の東永幸浩（埼玉県警）は、初戦で林田浩志（福岡刑務所）に敗れる波乱。今年の学生選手権で優勝の安藤翔（国士舘大）は、2回戦で網代忠勝（兵庫県警）に胴を決められ姿を消した。その網代は、準々決勝で野田篤史（愛知県警）と対戦し、小手で一本勝ちをおさめ、準決勝に進出した。

第2ブロック、過去2回優勝経験のある内村良一（警視庁）は、2回戦で脇岡明洋（大阪府警）、3回戦で遠藤一志（宮城）を降した。準々決勝では朝比奈一生（県立大和東高教）に、延長の末、竹刀を担いでからの面で勝利した。

選手コメント

▽ベスト8 朝比奈一生選手（県立大和東高教）

4月に警察官から高校教師へ転職した。
「仕事が忙しく、週に3回、20分程度の稽古しか出来ませんでした。が、神奈川県警のときに教えてもらったことをもとに、密度の濃い練習をしました。今日は生徒たちが応援に来てくれました。とても嬉しかったです」



応援にかけつけた生徒と記念撮影

▽ベスト8 野田篤史選手（愛知県警）



▽最年少出場（22歳） 安藤翔選手（国士舘大）
「背負うものがないので、相手に向かっていくだけでした。網代選手には自分の剣道をさせてもらえませんでした。期待に応えられるような試合は出来ませんでした。が、よい勉強になりました」

▽4年ぶりの出場 脇岡明洋選手（大阪府警）

「肩の怪我を乗り越え、厳しい大阪予選で優勝。特練では主将を務める。
「今年は女子選手権で大阪府警の山本真理子選手が優勝し、警察大会でも団体優勝できました。この勢いで全日本も優勝しようと思っています。あとは木和田に託します」

「夢の舞台で試合が出来て光栄です。初出場なので、思い切った。持っている力を出しきれたと思います。試合が終わった今は、すがすがしい気持ちです」

▽昨年準優勝も一回戦敗退 東永幸浩選手（埼玉県警）

「間合を錯覚してしまいました。結果を素直に受け止めて一からやり直します」



準々決勝〔高鍋〕
高鍋（右）の面が決まる



準々決勝〔木和田〕
木和田（左）の小手が決まる

◇第3・4ブロック（1回戦）準々決勝

第3ブロック、5月に行われた世界選手権大会での活躍が記憶に新しい木和田大起（大阪府警）は、初戦で志村圭一（長野県警）と対戦し、延長直後に小手を決めた。2回戦では海老原秀則（茨城県警）を面、小手で退けた。3回戦は蒔田直人（千葉県警）から延長戦で小手を決めて勝利した。準々決勝の相手は、過去9回出場、36歳のベテラン米屋勇一（埼玉県警）。木和田は、米屋の積極的な攻撃を受けるが、試合半ばで近間から小手を決め、そのまま一本勝ち。準決勝に進出した。第4ブロック、前人未踏の3連覇に期待がかかる高鍋進（神奈川県警）は、初戦から3回戦まで、鋭い面で勝利した。準々決勝では、埼玉県代表で初出場の橋本桂一（伊田テクノス）と対戦。高鍋は、試合中盤で橋本の出端に面を決めて先制。その後は、橋本の面や逆胴などの攻撃を凌ぎ、一本勝ちをおさめた。

選手コメント



▽ベスト8 米屋勇一選手（埼玉県警）

「ガツガツ行かずにベテランらしい試合をしようと思いました。木和田選手と公式戦で対戦するのは初めてでした。日本代表選手だけあって、強かったです。こちらから攻める気持ちで掛かっていきましたが、やっぱり打たれました」

▽ベスト8 橋本桂一選手（伊田テクノス）



「厳しい埼玉県予選を通過した実業団選手として注目が集まった。試合が出来るようになってきました。高鍋選手は勝負に行きたくなるような空気を持っています。面が速いので間合に入るのが怖かったです。先に仕掛けるという自分の特徴が出せませんでした」

◇準決勝

内村良一 ドー 網代忠勝

まずは内村が面で攻める。網代も面で返すが、内村は体を反って
 際どく^{かわ}躲す。内村が小手と面、網代が小手を狙う。4分過ぎ、内村
 は網代の面を胴で返して先制(写真・左)。追いつきたい網代は突
 きで攻めるが不十分。内村は無理に技を出さず、小手で攻めながら
 間合を潰す。時間となり、内村が2年ぶりに決勝へ進出した。



◇準決勝

木和田大起 コー 高鍋進

木和田は開始早々、大きく右に回り込み、小手・面の連続技で攻める。
 一方、高鍋も小手と面を狙うが木和田は小刻みな足捌き^{さば}で躲す。中盤に
 なって、木和田は積極的に前に出て自分の間合をつくる。残り2分余り、
 攻めあぐねる高鍋の手元が上がると、木和田はすかさず小手に切った(写
 真・手前)。先制した木和田は、再び序盤に見せた足捌きで高鍋の逆胴、
 小手、面を躲して、一本勝ち。高鍋の3連覇を阻み、決勝の舞台へ進んだ。



◆決勝

木和田大起 コー 内村良一

序盤は、近い間合での鏑迫り合いが繰り返される。両者、慎重な試合運びが続く、時間が経過していく。7分が過ぎ、内村が小手に跳ぶ。防ごうとした木和田は、ここで竹刀を落として反則(写真左上)。残り時間も少なくなり、一本はもちろん、一回の反則もとられてはならない木和田に対し、有利な状況になった内村は、一足一刀の間合から突きを放つ。しかし、木和田はこれに小手を合わせて先制する(写真左)。

一転して追いつめられた内村は、担ぎ面に逆胴、突きで必死の反撃に出る。対する木和田は足捌きを交えて躲し続ける。激しい攻防が続く中、会場に時間終了のブザーが鳴り響く。木和田が一本勝ちで勝利し、初優勝を果たした。新しい優勝者の誕生に、会場からは惜しみない拍手が送られた。



木和田(奥)は、内村の小手を受ける際に、竹刀を落とす。反則をとられ、不利な状況となる場面も



木和田(左)は、内村の突きに小手を合わせて先制した

選手コメント

▽準優勝Ⅱ内村良一選手(警視庁)



ありました。ただ、勝たなければならぬ重圧は、優勝する前から感じていました」

選手としての進退について。

「いまのところ五分五分です。やるにしても、厳しい予選からまた始めなければならぬので、モチベーションを保てるか分かりません。10

回(出場)という区切りなので、自分としては最後のつもりで臨みました。残念だという思いと、完全燃焼したという気持ちがあります」

▽三位Ⅱ網代忠勝選手(兵庫県警)



「準決勝では」
膠着状態から、技が出せませんでした。一瞬でやられてしまいました。足が止まって、手元が浮いた所を狙われたようです。3連覇のプレッシャーはもちろん

「初戦から、自分の試合をすることだけを考えていました。木和田先輩は正統派の剣道をする印象があります。捨て身で臨みましたが、手元が浮いてしまい、完璧にやられてしまいました。悔しさと厳しさを感じました。まだまだ修行不足です」

▽三位Ⅱ高鍋進選手(神奈川県警)



「1回戦から苦しい展開が続きましたが、何とか粘り強く試合をすることが出来ました。自分の持味は集中力です。一戦一戦気持ちを切り替えたのだと思います。やればできる、上までいけるんだという感覚がつかめました。あと一步、頑張ります」

足捌きの工夫で開眼、尊敬する先輩に恩返し

5年前、初出場でいきなりの三位入賞。平成20年には全国警察選手権で、当時現役の全日本選手権者であった寺本将司錬士六段を破り、優勝を果たしている。その実力が評価され、世界選手権大会は2度経験した。

本大会には3回目の出場。これまでとは違う意気込みで臨んだ。

「今回は選手権を取るという確信と自信を持って、予選から戦いました」

その言葉どおり、予選を含めて一本も取られることなく日本一となった。この「確信と自信」の源は何か――。

「世界大会に出場したとき、副将として日本チームを守りきれませんでした。それをきっかけに、自分の剣道を直すことにしました」

本年5月にイタリアで行われた世界大会団体戦決勝では、韓国の選手に面



木和田大起（きわだ・だいき）

錬士六段。三重県牟婁郡紀宝町出身。34歳。181cm、83kg。母親の知り合いが指導する道場で、小学1年生から剣道を始める。中学生のころから頭角を現し、県のチャンピオンに。その後、三重高校から中央大学に進学し、大阪府警に奉職。特練では副キャプテンを務める。全日本学生優勝大会準優勝、全国警察大会団体・個人優勝、世界選手権大会団体優勝。全日本選手権大会は3回目の出場で優勝。

を二つ決められた。結果としては、大將の高鍋選手が引き分けて、日本が本数差で辛勝、事なきを得たが、チームに対して迷惑をかけたことに、深く反省したようである。

「世界大会では、高鍋先輩から足の使い方や、試合運びのコツなど、いろいろなアドバイスを受けた。そこで自分なりに考え、足捌きを工夫することにしました」

持ち前の才能も相俟って、効果はすぐに現れた。帰国後、大阪予選優勝。全国警察大会では、大阪チームの団体優勝に貢献した。

本大会でも、前後左右の細かい足捌きで相手の技を躱し、攻める場面が多くみられた。

加えて、今回は小手が冴えた。得意技は面というが、1回戦から決勝まで、

全試合で小手を決めている。

「こんなに小手に偏ることは珍しいんですよ。ただ、無理に面に行くよりも、調子のいい小手を出そうと思いました」

もともと、準決勝の高鍋戦は、それほど冷静になれなかったようだ。

「無心で振り回して打つたら、旗が上がったという感じでした。勝って恩返しではないですけど、教えてもらったことをちゃんと身に付けているのが伝えられたかなと思います」

今回、高鍋選手には、どうしても勝っておきたかったという。

「これから日本代表を背負っていくならば、どうしても越えなければならぬ存在です。尊敬する高鍋先輩に勝って、『次は俺が引つ張るんだ』という主張や意志を持っていれば、仲間も付いてきてくれると思います」

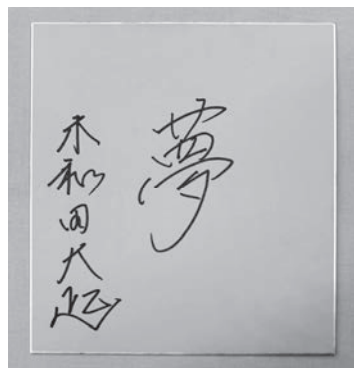
大きな壁を、ようやく乗り越えての全日本優勝。3年後に日本で開催される世界大会に向けて、これで心置きなく新たな一歩を踏み出せる。



閉会式が終わると、サインを求める子供たちに四方を囲まれ、身動きがとれなくなった。これには得意の足捌きも通用しない。

全日本のことを知ったのは、小学6年生の時。テレビでの観戦だった。

「西川清紀先生が優勝されました。自分が稽古している剣道とは、まるで違うものでした。別世界の出来事のように



試合後に木和田選手が書いたサイン

でした」
以来、強くなり、この大舞台に立ちたいという「夢」を持つようになった。生まれ育った地域は、それほど剣道が盛んではなかった。

「有名選手が来ることなんて、まずありませんでした。大人になって、西川先生を生で見た時は、『あのときテレビで見た人や!』と、感動しました」

サインには、ひとりずつ丁寧に応じた。名前と共に書いた言葉は「夢」。

「全日本優勝者として、剣道をとおして子供たちに『夢』を与えられるようになりたいです。これからは、いろいろな場所を訪れて、少しでも子供たちと一緒に練習できればいいなと思います」

選手権者として、今後の日本代表を牽引したいという気持ちもさることながら、未来の剣士に「夢」を与える役目も、しっかりと果たそうとしている。試合も含め、活躍が楽しみである。

第60回 全日本剣道選手権大会

段位	出場回数	氏名	選出県		段位	出場回数	氏名	選出県
五段	初	山本 竜輝	(熊本)	⊗	五段	初	六條 洋二	(徳島)
六段	2	土門 幸範	(山形)	13:11	五段	3	海老原秀則	(茨城)
錬六	3	佐藤 範和	(東京)	⊖	六段	4	志村 圭一	(長野)
四段	初	上田 大輔	(鳥取)	5:00	錬六	3	木和田大起	(大阪)
四段	初	長尾 進治	(山梨)	5:03	錬六	3	*蒔田 直人	(千葉)
五段	3	木下 智成	(香川)	13:58	五段	初	大津 章男	(福岡)
五段	初	*野田 篤史	(愛知)	7:39	五段	7	原田 賢治	(福島)
五段	初	谷岡 慎吾	(和歌山)	⊖	四段	初	川畑 竜也	(岐阜)
錬六	8	東永 幸浩	(埼玉)	15:21	錬六	4	杉本 健介	(兵庫)
五段	初	林田 浩志	(福岡)	10:04	五段	初	橋本 光見	(山口)
四段	初	木村 友哉	(新潟)	5:00	錬六	9	*米屋 勇一	(埼玉)
四段	初	藤田 浩輝	(滋賀)	10:58	五段	初	志水祐一郎	(愛知)
六段	4	網代 忠勝	(兵庫)	4:26	六段	3	笹川 哲平	(佐賀)
五段	5	赤尾 和彦	(群馬)	⊖	五段	初	荒武 秀春	(東京)
五段	初	工門健太郎	(三重)	23:22	五段	2	倉岡 修	(北海道)
四段	初	安藤 翔	(北海道)	23:29	錬六	6	井上 英之	(富山)
錬六	7	内村 良一	(東京)	5:00	五段	初	角田 亨	(青森)
五段	初	神野 洋平	(愛媛)	11:31	五段	2	鈴木 秀典	(福井)
錬六	5	脇岡 明洋	(大阪)	⊗	錬六	10	高鍋 進	(神奈川)
五段	2	白鳥 圭祐	(静岡)	5:00	六段	初	榎田 康太	(大阪)
五段	4	小谷 明德	(千葉)	7:03	四段	初	西村 佳記	(高知)
五段	4	中村 直紀	(石川)	4:52	六段	初	興梠 亮太	(大分)
錬六	2	大重 貴浩	(宮崎)	5:00	錬六	3	石井 洋幸	(千葉)
四段	初	*遠藤 一志	(宮城)	10:38	錬六	3	恩田 秀和	(島根)
錬六	初	*朝比奈一生	(神奈川)	2:22	五段	初	濱崎 勇輔	(東京)
四段	初	平瀬 昌宏	(奈良)	⊗	五段	8	高坂 雄介	(静岡)
四段	初	山口 武徳	(鹿児島)	5:00	五段	2	藤山 光治	(長崎)
五段	6	土田 圭助	(秋田)	17:13	六段	初	菊池 初男	(岩手)
錬六	2	白石 賢史	(栃木)	9:08	錬六	初	*橋本 桂一	(埼玉)
六段	2	加治屋隼人	(岡山)	5:21	六段	初	兼田 祐人	(京都)
錬六	3	小磯 仁徳	(茨城)	17:31	五段	初	尾池 達成	(広島)
五段	2	村方 孔哉	(福岡)	⊗	六段	4	仲間 洋輔	(沖縄)
				3:36				
				⊗				

優勝・木和田大起(大阪)

準優勝・内村良一(東京)

三位・網代忠勝(兵庫)
高鍋進(神奈川)

名前脇の*は優秀選手
トーナメント中の数字は試合時間(分・秒)



少年剣道指導
木刀による剣道基本技稽古法 (調布市剣道連盟)



日本剣道形
打太刀・忍足功範士、仕太刀・中田秀士範士

公開演武

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



（写真提供：剣道時代）

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

（四六判・上製・344頁）

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

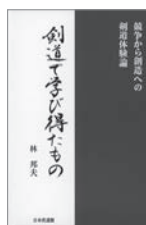


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）



女子 78kg級決勝＝佐藤（上）対岡村



男子 90kg級決勝＝加藤（左）対下和田

今年度後期の全日本強化選手を選考するとともに、来年の世界選手権日本代表選手第一次選考会となる平成24年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が、11月10・11日の2日間、千葉ポートアリーナで開かれ、男女各7階級に計398名が出場した。

■男子

▽100kg超級

七戸龍（九州電力）は初戦で上杉亮太（国士舘大）に一本負。準決勝でその上杉を破った学生体重別優勝の原沢久喜（日本大）が決勝で百瀬優（旭化成）と対戦。判定の結果、2―1で原沢が初優勝を飾った。

▽100kg級

90kg級から階級を上げて臨んだ小野卓志（了徳寺学園）は準々決勝で実業団王者の熊代佑輔（ALSOK）に判定で惜敗。その熊代が決勝で東海大の後輩・谷井大輝（東海大）を破って、初優勝した。

▽90kg級

今年の全日本選手権、選抜体重別優勝の加藤博剛（千葉県警）が登場。階級を上げて臨んだ高松正裕（桐蔭学園高教）を破った高校王者のベイ

カー茉秋（東海大浦安高）を小外刈で退ける。決勝では長身の下和田翔平（日本体育大）を小外に刈って、オール一本勝で初優勝となった。

▽81kg級

川上智弘（國學院大職）は高校生の小原拳哉（東海大相模高）を相手にまさかの不覚。その小原は準決勝で春山友紀（国士舘大）に敗れた。

長島啓太（JRA）と春山の決勝は、春山の小外を長島がうまく返して技有を奪い、連覇を達成した。

▽73kg級

昨年優勝の大東匡彦（旭化成）は準々決勝敗退。栗野靖浩（了徳寺学園）を破った土井健史と大野将平の天理大同士の決勝となった。試合は中盤に大野の内股が決まって、大野が初優勝を決めた。

▽66kg級

森下純平（筑波大）が初戦で浅野大輔（自衛隊体育学校）に敗れる波乱。決勝は浅野を破った吉田惟人（神奈川県警）と福岡政章（ALSOK）の対戦となり、福岡が優勢勝で階級変更後初めての優勝を果たした。

▽60kg級

1、2回戦を一本勝で勝ち上がった

選手コメント

●100kg超級優勝＝原沢久喜選手（日本大）
「たくさんの声援が背中を押してくれました。国際大会に出たことがないので、世界で活躍したいです」

●100kg級優勝＝熊代佑輔選手（ALSOK）
「ここ2年後輩に負けていたので、これ以上負けられないと思っていました。レスリングの吉田沙保里選手とは比べようがありませんが、ALSOKといえば熊代と言われるようになります」

●100kg級3位＝小野卓志選手（了徳寺学園）
「組手の厳しさや速さは90kg級が、力は100kg級が上ですね。今の自分には100kg級があとにいると思います。30歳を越えているので、後輩に技術を伝えていきたいと思っています」

●90kg級優勝＝加藤博剛選手（千葉県警）
「何度も逃した大会なので勝てて嬉しいです。今日は集中して最後まで臨みました。一つずつ勝って世界で活躍したいです。海外選手は組手も違うので、研究しています」

●81kg級優勝＝長島啓太選手（JRA）
「自分なりに試合の安定感が出てきたと思います。内容にこだわらず、勝つことを第一にやっています」

●73kg級優勝＝大野将平選手（天理大）
「なかなか個人で結果を残せないでいたので、今日は結果を出したいと思って臨みました。最後まで我慢して自分の柔道ができました」

●66kg級優勝＝福岡政章選手（ALSOK）
「所属の応援席から大きな声援が聞こえ、感謝の気持ちでいっぱいです。この階級は若手に強いのがたくさんいますが、自分の柔道を出せるようにしていきたいですね」

●60kg級優勝＝木戸慎二選手（日本体育大）
「今まで大きな大会では大事なところで負けてばかりだったので、本当に嬉しいです。志々目は強くて尊敬していますが、先輩なので負けられないと思いました」

▽70kg級
昨年優勝の今井優子（了徳寺学園）はまさかの初戦敗退。決勝には

会連覇を決めた。

▽78kg級
経験豊富な佐藤瑠香（コマツ）と岡村智美（コマツ）が順当に決勝に勝ち上がった。試合は中盤、岡村が背負投に入ったところを佐藤が小外掛で返して、一本を奪い、見事に大会連覇を決めた。

▽78kg級
勝となった。

今年の全日本女子選手権覇者の山部佳苗（山梨学院大）は3回戦で市橋寿々華（大阪府警）に内股を透かされて敗れた。注目の高校生、朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）は2回戦で白石のどか（JR東日本）に敗退。決勝は白石対市橋となり、白石が延長の末に優勢勝で嬉しい初優勝となった。

■女子
▽78kg超級

た学生チャンピオンの木戸慎二（日本体育大）は、準々決勝で昨年優勝の川端龍（了徳寺学園）を小内刈で仕留める。準決勝も勝って迎えた決勝の相手は、大学の後輩・志々目徹。判定で木戸に凱歌があがった。



男子73kg級決勝＝大野（上）対土井

それぞれの新たなスタート

平成24年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会



女子70kg級決勝＝大野（下）対大住



男子100kg超級決勝＝原沢（右）対百瀬

選手コメント

●78kg超級優勝＝白石のどか選手（J R東日本）
「無我夢中でした。信じられません。7年ぶりの決勝でした。怪我で自信を失っていた時期もありましたが、周囲の方々の応援のおかげでここまで来ることができました」

●78kg級優勝＝佐藤瑠香選手（コマツ）
「練習でやってきたことを出し切るつもりで臨みましたが、出せませんでしたので、次の試合では出せるようにしたいです」

●70kg級優勝＝大野陽子選手（コマツ）
「嬉しい気持ちはありますが、ここからがスタートだと思います。一年一年を大切に、世界を相手に戦っていきたいと思います」

●63kg級優勝＝阿部香菜選手（三井住友海上）
「昨年の世界選手権で情けない結果を残したので、もう一度出場したいと思います。今日は緊張しましたが、コントロールできました」

●57kg級優勝＝山本杏選手（桐蔭学園高）
「去年は不甲斐ない結果だったので優勝できて嬉しいです。相手がいつもよりしっかりと見えていました。大学に行っても日々努力して、目の前の試合を勝っていききたいです」

●52kg級優勝＝黒木美晴選手（環太平洋大）
「シニアで初めて優勝できました。山組を見て、西田選手と試合をするチャンスだと思っていたので残念です。今回は勢いで勝った部分があるので、まぐれと言われたいと思います」

●52kg級7位＝西田優香選手（了徳寺学園）
今年、国体に出場するも体重超過で失格になった。

「まだ神様がやめるなど言ってるのかと思いました。講道館杯出場を決めたのは1カ月前で、こんなに直前に出場を決めるのは初めてで不安でした。肘は怪我しましたが、グランドスラムは痛み止めを打ってでも出場します」

●48kg級優勝＝浅見八瑠奈選手（コマツ）
「いろんなことを乗り越えての優勝でした。支えてくださった方々に恩返しがなかったです。優勝したい気持ちが強すぎて、決勝は少し空回りしてしまいました。世界選手権3連覇を目指して頑張ります」



女子48kg級決勝＝浅見（右）が十田を攻める

▽63kg級
大野陽子（コマツ）と大住有加（J R東日本）が進出し、大野が背負投で有効を奪って、初優勝を果たした。

▽57kg級
一昨年の世界選手権準優勝の田中美衣（了徳寺学園）は準決勝で片桐夏海（コマツ）に判定で敗れた。もう一方のブロックから勝ち上がったのは阿部香菜（三井住友海上）。決勝は阿部が小外刈で有効を奪い、初めての優勝となった。

▽48kg級
注目の山本杏（桐蔭学園高）が登場。山本は準決勝で平井希（自衛隊体育学校）を破って決勝へ。決勝では宇高菜絵（コマツ）から技有を奪って、この階級では初優勝となった。

▽52kg級

西田優香（了徳寺学園）が初戦、優勢に試合を進め、相手から指導を2つ奪ったが、中盤に自らの背負投で左肘を亜脱臼。その試合には勝利したものの、その後は棄権を余儀なくされた。混迷の中、黒木美晴（環太平洋大）が決勝で橋本優貴（コマツ）を下して初優勝した。

▽48kg級

世界選手権2連覇中の浅見八瑠奈（コマツ）は、順当に勝ち上がって決勝へ。相手は山岸絵美（三井住友海上）、岡本理帆（藤枝順心高）を破った十田美里（近畿大）。浅見は思うように技が出ず、なんとか判定勝を収めた。

大会終了後、強化委員会が開かれ、11月30日開幕のグランドスラム東京の出場選手が決定し、記者会見で出場選手および強化委員会の新体制について、斉藤仁強化委員長より発表された。

11月5日に発表された井上康生氏（東海大教）の全日本男子監督就任に加えて、男子コーチに鈴木桂治氏（国士館大教）の起用が発表された。鈴木コーチは低迷する100kg超級、100kg級を主に担当することになる。

●鈴木桂治全日本男子コーチ

「100kg超級の選手は体を見ればわかる通り、基本的に怠け者です。それを厳しく指導していくことが役目だと思っています。甘やかすようなことはしません」

低迷する男子重量級復活が遂げられるか、井上、鈴木両指導陣の手腕が注目される。



鈴木桂治全日本男子コーチ

「グランドスラム東京2012」日本代表選手

- ▼男子
- ▽100kg超級Ⅱ上川大樹（京葉ガス、七戸龍（九州電力、百瀬優（旭化成、原沢久喜（日本大）
 - ▽100kg級Ⅱ熊代佑輔（ALSOK）、浅沼拓海（国士館大）、谷井大輝（東海大）、小林大輔（ALSOK）
 - ▽90kg級Ⅱ西山将士（新日鐵住金）、加藤博剛（千葉県警）、吉田優也（旭化成）、下和田翔平（日本体育大）
 - ▽81kg級Ⅱ中井貴裕（流通経済大）、川上智弘（國學院大職）、長島啓太（JRA）、春山友紀（国士館大）
 - ▽73kg級Ⅱ中矢力（ALSOK）、栗野靖浩（了徳寺学園職）、西山雄希（筑波大）、大野将平（天理大）
 - ▽66kg級Ⅱ海老沼匡（パーク24、高上智史（日本体育大、福岡政章（ALSOK）、吉田惟人（神奈川県警）
 - ▽60kg級Ⅱ木戸慎二（日本体育大、志々目徹（日本体育大、石川裕紀（了徳寺学園職、高藤直寿（東海大）
- ▼女子
- ▽78kg超級Ⅱ田知本愛（ALSOK）、山部佳苗（山梨学院大、白石のどか（JR東日本）、朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）
 - ▽78kg級Ⅱ緒方亜香里（筑波大、佐藤瑠香（コマツ）、岡村智美（コマツ）、穴井さやか（ミキハウス）
 - ▽70kg級Ⅱ田知本遥（東海大、今井優子（了徳寺学園職）、大野陽子（コマツ）、ヌンイラ華蓮（環太平洋大）
 - ▽63kg級Ⅱ阿部香菜（三井住友海上）、片桐夏海（コマツ）、田代未来（淑徳高）、津金恵（松商学園高）
 - ▽57kg級Ⅱ松本薫（FLJ）、山本杏（桐蔭学園高、宇高菜絵（コマツ）、平井希（自衛隊体育学校）
 - ▽52kg級Ⅱ西田優香（了徳寺学園職）、橋本優貴（コマツ）、黒木美晴（環太平洋大）、宮川拓美（コマツ）
 - ▽48kg級Ⅱ浅見八瑠奈（コマツ）、十田美里（近畿大、岡本理帆（藤枝順心高、山岸絵美（三井住友海上）

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位
100kg超級	原沢久喜（日本大）（初優勝）	百瀬 優（旭化成）	高橋和彦（新日鐵住金） 岩尾敬太（国士館大）
100kg級	熊代佑輔（ALSOK）（初優勝）	谷井大輝（東海大）	小野卓志（了徳寺学園職） 浅沼拓海（国士館大）
90kg級	加藤博剛（千葉県警）（初優勝）	下和田翔平（日本体育大）	ベイカー 栗秋（東海大浦安高） 北野裕一（國學院大）
81kg級	長島啓太（JRA）（2年連続2回目）	春山友紀（国士館大）	川上智弘（國學院大職） 小原拳哉（東海大相模高）
73kg級	大野将平（天理大）（初優勝）	土井健史（天理大）	齋藤 涼（旭化成） 大束匡彦（旭化成）
66kg級	福岡政章（ALSOK）（初優勝*）	吉田惟人（神奈川県警）	本間大地（東海大） 浅野大輔（自衛隊体育学校）
60kg級	木戸慎二（日本体育大）（初優勝）	志々目徹（日本体育大）	石川裕紀（了徳寺学園職） 高藤直寿（東海大）
◆女子			
78kg超級	白石のどか（JR東日本）（初優勝）	市橋寿々華（大阪府警）	井上愛美（山梨学院大） 山部佳苗（山梨学院大）
78kg級	佐藤瑠香（コマツ）（2年連続2回目）	岡村智美（コマツ）	穴井さやか（ミキハウス） 吉村静織（三井住友海上）
70kg級	大野陽子（コマツ）（初優勝）	大住有加（JR東日本）	新井千鶴（三井住友海上） ヌンイラ華蓮（環太平洋大）
63kg級	阿部香菜（三井住友海上）（初優勝）	片桐夏海（コマツ）	田代未来（淑徳高） 津金 恵（松商学園高）
57kg級	山本 杏（桐蔭学園高）（初優勝**）	宇高菜絵（コマツ）	石川 慈（コマツ） 平井 希（自衛隊体育学校）
52kg級	黒木美晴（環太平洋大）（初優勝）	橋本優貴（コマツ）	谷本 和（環太平洋大） 宮川拓美（コマツ）
48kg級	浅見八瑠奈（コマツ）（2年ぶり3回目）	十田美里（近畿大）	岡本理帆（藤枝順心高） 山岸絵美（三井住友海上）

*福岡は平成21年に60kg級で優勝。 **山本は平成22年に52kg級で優勝。

待望の 単行本化

嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

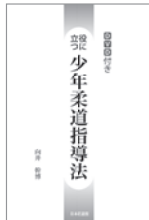
（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

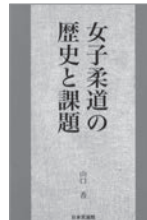


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は 素晴らしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

全国警察大会 柔道大会

兵庫が悲願の初優勝

(第1部)

第2部は埼玉、第3部は山口が初優勝

昨年、東日本大震災の影響で中止となった、第64回全国警察柔道大会が、10月22日、日本武道館で開催された。試合は団体戦で、第1部（7人制・12チーム）、第2部（6人制・18チーム）、第3部（5人制・18チーム）のグループ別に実施され、それぞれ優勝を目指して熱戦が展開された。

第1部は、初めて決勝に進出した兵庫が、福岡を降して初優勝を果たした。第2部でも、埼玉が初優勝し、第3部でも、山口が初優勝を遂げた。

試合は、4分間一本勝負で、時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとした。なお、優勢勝ちの有効または指導2には5点、技有には7点が、一本勝ちには10点が付与され、勝者同数の場合は得点数（内容差）で勝敗を決し、更に同点の場合は、決勝トーナメントのみ代表戦を行った。

第1部では、予選リーグを勝ち抜いた警視庁、兵庫、福岡、神奈川が決勝トーナメントに進出。7連覇中の警視庁は兵庫と対戦し、3―3ではあったが、兵庫の五将・松本が技有、中堅・岩田が一本勝ちを収める活躍を見せ、得点数22―15で、兵庫

が初の決勝進出を果たした。福岡対神奈川は、3―1で福岡が勝利し、2大会ぶりの決勝進出を決めた。

決勝先鋒戦、兵庫・廣瀬対福岡・

三村は、互いに指導1で引き分け、次鋒戦は、兵庫・松本の猛攻で、福岡・川波は指導2となり、松本の優勢勝ち。五将戦では、序盤に、兵庫・浦瀬が低い体勢のまま、福岡・富松を左から巻き込んで転がると、それが技有となり、浦瀬がこれを守り切つて勝利。しかし、中堅戦では、開始30秒、福岡・後小路が、兵庫・長尾を内股で仕留めて一本勝ちを収める。三将戦は、攻め続ける兵庫・岩田が終盤、福岡・柴崎に大内刈を決めて一本勝ちとなる。

3―1の兵庫リードで迎えた副将戦は、序盤、福岡・江藤の猛攻で兵庫・木下は指導を受けるが、これで奮起した木下は、開始から3分、江藤の払腰に耐えると、逆に体を捌いて江藤を払腰で投げ、これが一本となつて勝負を決める。残った兵庫・松崎と福岡・青山の大将戦は、松崎が指導を受けるが引き分けに終わり、4―1で兵庫が初優勝に輝いた。

◎第1部優勝〓兵庫・岸田直樹監督
監督となつて2年目で兵庫県警を優勝に導いた。

「選手たちには優勝できる力がありましたし、若手とベテランの入り交じつた良いチーム構成で臨むこともできました。オーダーも上手く噛み合つて、選手たちの士気も高かつたと思います」

【大会結果】

- ▽第1部〓①兵庫②福岡③警視庁
- ▽第2部〓①埼玉②京都③愛媛
- ▽第3部〓①山口②香川③三重
- ◇全勝者表彰〓松本泰司（兵庫）



第1部優勝＝兵庫

第1部決勝副将戦＝兵庫・木下（下）の払腰が決まる

全国警察大会 全剣道大会

大阪が24度目の優勝

(第1部)

第2部は福岡、第3部は長崎が優勝

同じく昨年は東日本大震災の影響で中止の第59回全国警察剣道大会が、10月23日、日本武道館で開催された。試合は団体戦で、第1部(7人制・12チーム)、第2部(6人制・18チーム)、第3部(5人制・18チーム)のグループ別に実施され、それぞれ優勝を目指して熱戦が繰り広げられた。

第1部は、大阪が愛知を破って2大会ぶり、通算24度目の優勝を遂げた。第2部では、福岡が優勝し、第3部では、長崎が優勝を果たした。

試合は、5分間三本勝負で、時間内に勝敗が決しない場合は3分間一本勝負の延長戦を行い、それでも決しない場合は引き分けとした。なお、チームの勝敗は、勝者数、本数の順で決まり、更に同数の場合は、代表戦で勝敗を決した。

第1部では、千葉、愛知、京都、大阪が決勝トーナメントに進出した。予選で優勝候補の神奈川を代表戦の末に破った千葉であったが、愛知との対戦では、5-1と敗北、愛知が30年ぶりに決勝へ進出した。一方、大阪と京都の対戦も、大阪が5-1で勝利し、決勝へと駒を進めた。

決勝、先鋒戦で、愛知・木谷が開始早々に、大阪・升田から小手を奪って一本勝ちするものの、次鋒戦では、大阪・萩原が、愛知・野田から開始1分で面を奪うと、終盤にも面を決めて二本勝ちした。五将戦では、中盤に大阪・榎田が、愛知・脇蘭に飛び込んで面を決めると、終盤にも小手を決めて二本勝ちを収めた。中堅戦では、序盤に大阪・友井が、愛知・大久保から小手を奪って先制、しかし、終盤に大久保が面を決めて延長戦となり、その出端に友井の面に対して大久保は胴を決めて勝利し、対戦成績を2-2とした。

三将戦、大阪・古川と愛知・加藤の対戦は、互いに有効打のないまま延長戦の末、引き分けとなり、その結果、次の副将戦で大阪・木和田の一本勝ち以上で大阪の優勝が決まることになった。木和田は愛知・津田と対戦し、序盤から一進一退の攻防が続いたが、終盤に木和田が面を決めて均衡が破られると、その30秒後にも再び木和田が小手を決め、二本勝ちを収めた。大将戦も、大阪・脇岡が、愛知・清水から面と小手を奪って勝利し、4-2で大阪が優勝した。

◎第1部優勝＝大阪・愛甲和彦監督「監督となって初めて優勝できて感謝の気持ちで一杯です。予選で神奈川が負けた時は、一瞬動揺しましたが、選手たちには、どこが上がつて来ても、一試合一試合、気を抜かず集中して、いつもどおりに、言い聞かせていました。今日はそのようにできたと思います」

【大会結果】

- ▽第1部①大阪②愛知③千葉
- ▽第2部①福岡②兵庫③岡山
- ▽第3部①長崎②大分③愛媛
- ◇全勝者表彰＝藤山光治(長崎)



第1部決勝副将戦Ⅱ
大阪・木和田(右)が面を決める



第1部優勝＝大阪

好評発売中



スポーツドクター 辻 秀一 著

四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

ほんとうの価値の伝え方

武道スポーツの真髄



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

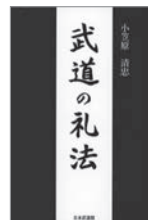


武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



中村大輝（目育2年大）が学生横綱

団体Aは日本大が3年ぶりの優勝

第90回記念全国学生相撲選手権大会

第90回記念全国学生相撲選手権大会は、11月10日、11日の2日間、東京・両国の国技館で開催された。1日目には団体戦Cクラスと個人戦が、2日目には団体戦BクラスとAクラスの試合が行われた。

個人戦では、決勝で中村大輝（日本体育大）が、昨年の優勝者・正代直也（東京農業大）を破って学生横綱となった。

団体戦Aクラスは、日本大が東洋大を破って3年ぶり27回目の優勝を果たした。

個人戦

193名が出場し、学生横綱横綱を目指してトーナメント戦で争った。準

個人戦決勝＝中村大輝（奥）対正代直也



準決勝＝中村（左）対遠藤



準決勝＝正代（右）対工藤

決勝には、前回優勝者・正代直也（東京農業大）、前回準優勝の中村大輝（日本体育大）、今年の国体優勝者・遠藤聖大（日本大）、工藤豪人（日本大）の4名が勝ち上がった。

▽準決勝

工藤豪人●突き落とし○正代直也

準決勝第1試合は、正代対工藤。立ち合いから正代が左手を差して突き落とし、今年も決勝進出を決める。

遠藤聖大●押し出し○中村大輝

続く準決勝第2試合は中村と遠藤の対戦。中村が、低く当たってくる

遠藤の体を引いてバランスを崩させ、土俵際まで追い込むとそのまま押し出して中村の勝ち。

▽決勝

正代直也●肩透かし○中村大輝

決勝は、昨年と同じ組み合わせの中村対正代となった。昨年は正代が勝っている。

立ち合いで強く当たると、正代が下手まわしを取って土俵際まで追い込むが、中村は何とか残る。中村はそこから左手を差して、正代の脇をかかえて引き倒し、中村が初優勝を決めた。



決勝。正代が土俵際まで追い込むも、中村は凌ぐ

◎中村大輝選手（日本体育）

「お子さんが生まれたばかりの監督への、お祝いの気持ちも込めて、優勝できてよかったです。」

立ち合いで当たれば良い相撲にもついていけるので、それを繰り返し稽古しました。また、叩き込まれて負けることが多かったので、足を前に出して、重心をお腹の位置に意識すること、心をかけて、稽古しました。すり足や四股をふむのも全部、腰の中に入れることを意識してやっていたので、それがよかったのかなと思います。

4年生のときに横綱を取らないと意味がないので、それまで稽古の気を抜かずに、頑張っています」



団体戦Aクラス

16校（Bクラス上位4校を含む）

による3試合ずつの予選を行い、勝数と得点による上位8校が決勝トーナメントで争う。決勝トーナメントには、拓殖大、日本体育大、近畿大、東京農業大、日本大、東洋大、同志社大、九州情報大の8校が進出した。

その中から1回戦を勝ち上がったのは、九州情報大、日本大、日本体育大、東洋大の4校。

▽準決勝

九州情報大 1-4 日本大

ナランバタ○突き出し●川端翔伍

梅崎恭輔●掬い投げ○工藤豪人

川口 弾●寄り切り○遠藤聖大

古場大地●掬い投げ○安彦剣太郎

横尾将大●寄り切り○坂元元規

九州情報大が先鋒戦で勝って先制するも、次鋒、中堅、副将、大将と日本大が連勝して、日本大の決勝進出が決まる。

日本体育大 2-3 東洋大

一ノ瀬康平○押し倒し●大道久司

濱町明太郎○押し倒し●小澤晃太郎
中村大輝●突き落とし○芳賀翔真
南雲学人●小手投げ○中出雄真
吉田佳佑●押し倒し○田邊直人

先鋒、次鋒と日本体育大が連取すると、東洋大が中堅、副将で勝って追いつく。大将戦、体重210キロの東洋大・田邊が日本体育大・吉田を押し倒して、東洋大が逆転勝ちした。

▽決勝

日本大 5-0 東洋大

川端翔伍○突き落とし●大道久司

工藤豪人○上手投げ●小澤晃太郎

遠藤聖大○上手出し投げ●芳賀翔真

安彦剣太郎○寄り切り●中出雄真

坂元元規○上手出し投げ●田邊直人

先鋒戦、日本大・川端が、重心低く潜ってきた大道を突き落とす。次鋒戦では、日本大・工藤が上手をとって芳賀を投げる。両者ともに土俵下に落ちたため、審判による協議となるも、工藤に軍配が上がる。

次の1勝に優勝がかかる日本大の中堅は主将の遠藤、対するは東洋大・芳賀。立ち合いから遠藤が上手をとりに行き、上手出し投げで羽賀を降す。日本大の優勝がここで決まる。



団体A決勝次鋒戦＝日本大・工藤（右）が東洋大・小澤を投げる

続く副将戦では、日本大・安彦が寄り切りで、大将戦では日本大・坂元が上手出し投げで勝ち、結果は5対0と、日本大の圧勝となった。

◎日本大主将・遠藤聖大選手

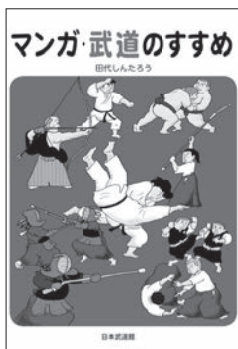
「決勝では、自分で決めるんだっていう気持ちが強かったですね。あまり感情を出さないように、冷静にと、自分に言い聞かせて、勝った瞬間も、

『これが日大だぞ』という気持ちで冷静に振る舞いました。

大会直前に、コーチ陣が頭を丸めたのを見て、気合いが入ってるなと思いい、その日の夜、主将の自分と総務と副キャプテンとの4人で丸めまったけど、この気持ちを受けとめてくれと話しました。すると次の日、みんな頭を丸めていました。そうい

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

相撲は塔尾武夫、住吉和則、下村勝彦、
安井和男の4氏を掲載！

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



団体A優勝＝日本大

うチームになってくれたことを嬉しく
思いしました。今日がこのチームで
戦う最後の大会なので、本当に良か
ったです」

団体戦Bクラス

16校（Cクラス上位4校を含む）
によるトーナメント戦が行われた。
決勝には駒澤大と関西学院大が進出
し、3対2で駒澤大が優勝した。

団体戦Cクラス

14校によるトーナメント戦が行わ
れた。決勝は、埼玉大と名古屋大で
争われ、4対1で埼玉大が優勝した。

◆廃部の危機を乗り越えたい◆
埼玉大主将・児玉朋隼選手

「埼玉大相撲部は、部員がいなく
て廃部になっていた時がしばらくあ
ったのですが、今4年生の中曽根誠
先輩が入学して、また部を作りました。
今回、先輩の最後の試合だった
ので、優勝できて嬉しいです。」

今も正部員は3人しかいません。

中堅と副将は、パワーリフティング
部の選手が出てくれました。先輩が
卒業すると正部員
は2人になってし
まい、2人も来年
4年生なので、廃
部にならないよ
う、何とか部員を
確保したいです」



【大会結果】

◇個人

- 優勝 中村大輝（日本体育大）
- 第2位 正代直也（東京農業大）
- 第3位 遠藤聖大（日本大）

工藤豪人（日本大）

◇団体A

- 優勝 日本大
- 第2位 東洋大
- 第3位 九州情報大、日本体育大

◇団体B

- 優勝 駒澤大
- 第2位 関西学院大
- 第3位 金沢学院大、朝日大

◇団体C

- 優勝 埼玉大
- 第2位 名古屋大
- 第3位 防衛大、立教大

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法など、なごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすゝめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」英訳文）（「武道憲章」
カライ口絵）（日本武道館・9武道・10武道30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ①国際武道大学 ②国士館大学
③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学
⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。



マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

第46回少林寺拳法全日本学生大会 「凛」をテーマに 二千名の学生拳士が集う



女子団体の部・最優秀＝同志社大



立合評価法男子有段の部・最優秀披露
＝同志社大・山本(右)対早稲田大・林



団体の部・最優秀＝早稲田大

第46回少林寺拳法全日本学生大会は、11月4日、日本武道館で開催された。大会には、全国138の大学から1918名が参加し、全19種目で、日頃の修練の成果が披露された。

大会は、午前9時に、近藤迪子北海道学生連盟委員長の主座による鎮魂行で始まり、続いて本選出場を懸けた演武17種目の予選が行われた。開会式は、午後1時30分から来賓を招いて行われ、松本尚也関西学生連盟委員長が開会を宣したあと、国歌斉唱を経て、松平頼武全日本学生連盟会長が挨拶に立ち、「本大会のテーマは『凛』です。心を鎮めて凛然とした気持ちで大会に臨み、日頃の修練の成果を存分に発揮していただきたい。そして、学生時代に少林寺拳法の教えをしつかりと学び、身に付け、社会に出てから活躍していただきたい」と述べた。

続いて、新井庸弘少林寺拳法連盟会長が、「今年は少林寺拳法の創始者・宗道臣生誕100年を祝う年であり、創始65年を迎えた年でもあります。『人づくりによる国づくり』を目的に創始された開祖の志を再確認し、

本当の強さ、やさしさ、そして人間として生きる規範を身に付け、仲間と共に、皆が安心して暮らせる社会をつくっていきましょうではありませんか」と、激励と共に祝辞を述べた。

その後、来賓紹介、祝電披露、模範演武、浅利圭介全日本学生連盟委員長の挨拶と続き、本選へと移った。本選では、予選通過の拳士たちによって、学生らしい気合の溢れた、スピード感のある演武が披露された。本選終了後は、有段者による、男女別の立合評価法(防具着用による攻防等の審査)が行われ、修練の成果が試された。

閉会式では、大野木憲三審判団長が講評を行い、飛ぶ受け身や、演武での不自然な流れ、また過去の最優秀演武を真似た構成が目立ったことなどを挙げて、学生たちを戒めた。

続いて、成績発表が行われ、各種目の最優秀演武が披露された。





◎天野雅弘拳士（左）

「自分たちの力だけではなく、監督をはじめ、周りの方々の支えがあって最優秀を取れたと思います。本当に良かったです。これに満足せず、次の大会でも最優秀を目指します」

◎松尾裕太拳士

「最優秀を取るイメージで練習してきました。監督、コーチ、先輩たちに感謝の気持ちで一杯です。天野とは3年生の同期です。実力もまだまだです。あと、1年ありますので、もっと頑張りたいと思います」



男子二段以上の部・最優秀＝天野（左）・松尾組（日本体育大）



◎高橋育恵拳士（左）

「2年前の1年生の時に、この部門で最優秀を取れなくて、悔しい思いをしました。今回は最高に嬉しいです。堀尾に感謝です。次の全国大会でも、観てくれる皆さんに感動を与えられるような演武をしたいと思います」

◎堀尾愛拳士

「先輩が悔しい思いをしていたので、何としても最優秀を取りたいと思って挑みました。12月の全国大会では、もう一段階、成長した演武を披露したいと思います」



女子二段以上の部・最優秀＝高橋（左）・堀尾組（明治大）

【大会結果】

■演武（最優秀のみ）

▽男子二段以上 天野雅弘・松尾裕太（日本体育大）▽女子二段以上 高橋育恵・堀尾愛（明治大）
 ▽男女二段以上 河角龍馬・向井裕香子（桃山学院大）▽男子初段 内山田駿太・山岡健太郎（日本体育大）▽女子初段 馬場万恵・森井愛美子（同志社大）▽男女初段 三橋智恵・村越雄磨（明治大）
 ▽男子茶帯 戸本宗一郎・森拓海（防衛大）▽女子茶帯 下河みずほ・藤森沙也加（関西学院大）▽男女茶帯 長谷川俊樹・丸山俊江（明治大）▽男子白緑帯 遠藤壮一朗・片山遼（上智大）▽女子白緑帯 田口蘭奈・横谷マイア（明治学院大）▽男女白緑帯 返田暢・藤田詩織（明治学院大）▽三人掛け 浅利圭介・森恒裕・山本裕也（早稲田大）▽単独有段 可児愛佳（南山大）▽単独段外 大田帆花（愛媛大）▽団体 早稲田大▽女子団体 同志社大

■立合評価法

▽地区別男子有段 ①関西 ②関東 ③東海 ④男子有段 ①山本翔一（同志社大）②林龍之介（早稲田大）③服部洋祐（近畿大）▽地区別女子有段 ①関西 ②関東 ③北海道 ④女子有段 ①小林千詩（同志社大）②樋口麻緒（日本女子体育大）③東野奈多（関西外国語大）

■地区別総合成績

①関西 ②関東 ③九州

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力——
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

——魂魄(こころ)を育てる——

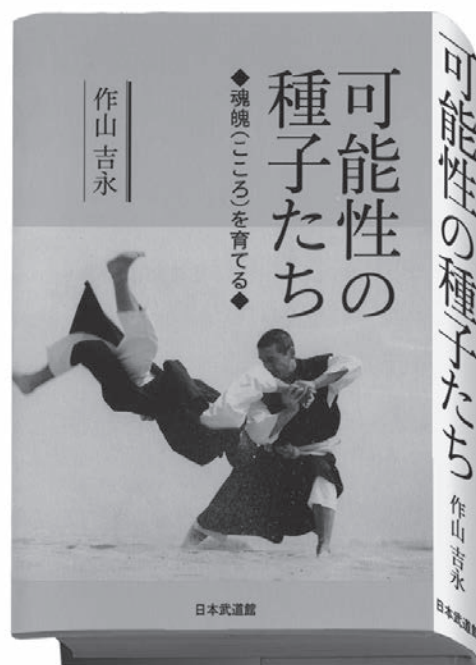
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／
第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／
第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄(こころ)を育てる／
第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ



（B5判・236頁）

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！

